若原学長からの式辞は次のとおりです。

本日ここに、豊橋技術科学大学 開学 50 周年記念式典を執り行うにあたり、文部科学省ならびに国会議員の皆様、国立高等専門学校機構の皆様、国立大学をはじめとする近隣大学の学長の皆様、愛知県知事、豊橋市長、豊橋商工会議所会頭をはじめとするご来賓の皆様、ならびに教職員、学生、本学ゆかりの多くの皆様にご臨席を賜りましたこと、心より深く御礼申し上げます。

昭和 51 年 10 月 1 日、先人たちの情熱により初代学長・榊米一郎先生のもとで産声を上げた本学は、この 10 月をもちまして、開学 50 周年という大きな節目を迎えることができました。

この半世紀におよぶ歩みと豊かな成果は、本学の礎を築いてくださった歴代学長、教育と研究に情熱を傾けてきた教職員の不断の努力、そして文部科学省、高等専門学校関係の皆様、地域社会・産業界の皆様の温かいご理解と力強いご協力の賜物です。改めまして、深く感謝申し上げます。

振り返れば昭和 30 年代、高度経済成長の波の中で、実践的な技術教育を担う高等専門学校が全国に設置されました。その後、急速な科学技術の発展に伴い、時代の新たな課題に応え、人類の福祉に貢献できる「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者」の育成が強く求められるようになりました。

こうした時代の要請を受け、本学は長岡技術科学大学とともに、高等専門学校の卒業生を主として受け入れ、学部・大学院までの一貫教育により高度専門人材を養成する新構想の国立大学として誕生いたしました。開学以来、全国の高等専門学校の皆様との強固な連携のもと、これまでに学部・大学院一貫教育を通じて 21,348 名の卒業生・修了生を社会へと送り出してまいりました。彼ら、彼女らは今、国内外の様々な産業分野において、実践的かつ指導的な技術者として第一線で活躍しております。

また、本学の誕生を語るうえで欠かせないのが、東三河・豊橋の地元の皆様のご尽力でございます。
戦後、「地域づくりは人づくりから」という理念のもと、昭和 40 年代に豊橋青年会議所の皆様が「技術系大学の設立」を掲げて立ち上がられました。「この地に技術系大学を」という熱い思いは、豊橋商工会議所をはじめ地域全体へと広がり、昭和 48 年、神野信郎氏、当時の青木茂（あおき　しげる）市長をはじめとする地元の皆様の粘り強い交渉により、豊橋への誘致が正式に決定いたしました。

当時、単科大学用地は約 5 万坪程度と言われていたところ、その 2 倍以上となる約 11 万坪という広大で理想的なキャンパス用地をご提供いただきました。これは、地元の皆様の並々ならぬ期待の表れにほかなりません。行政・経済界・市民の皆様が一体となって大学を誘致し、育んでくださったことこそが、本学の誇り高き原点でございます。

私自身、釧路高専を経て本学の 3 年次に編入した一人です。見知らぬ豊橋の地で、夜遅くまで議論を戦わせた仲間や恩師、そして下宿先の確保など学生の生活環境を整え、若い学生を温かく迎え入れてくださった地域の皆様の優しさは、今も私の心に強く残っております。高専で背中を押され、豊橋の地に育まれたこの原体験が、多くの卒業生の活躍を支えております。一人の卒業生といたしましても、地域の皆様にこころより感謝申し上げます。

本学は開学以来「技術を究め、技術を創る」をモットーに掲げてまいりました。その象徴が学部 4 年次に必修として課している約 2 か月間の「実務訓練」です。現場の課題に触れ、解決するプロセスを通じて実践的な技術感覚と人間性、そして考え出す力を育むこの取り組みは、多くの企業の皆様のご協力の下、今日まで本学の大きな強みとして受け継がれております。

開学 40 周年からのこの 10 年間におきましても、本学はその強みを生かした先進的なプロジェクトに挑み続けてまいりました。

半導体・センサ分野では、開学以来培ってきた設計からプロセス・実装・評価までを一気通貫で行える国内大学唯一の研究開発環境を生かし、文部科学省の「次世代 X-nics 半導体創生拠点形成事業」などの大型プロジェクトを推進しております。次世代半導体・センサ科学研究所（IRES²）を中心に、高専生から社会人までを対象とした人材育成「Toyohashi Semicon. Camp.」を展開し、地域や国内の産業界が強く求める高度専門人材の育成に取り組んでまいります。

また、科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」にて立上げた「人間中心アグリテック共創センター」では、全国有数の農業と工業の集積地である東三河の強みを生かして、「農」と「工」を結ぶ新たな価値創出に挑んでいます。地元の皆様のご支援で進めてまいりました IT 食農先導士をはじめとする人材育成講座の修了生をつなぐネットワークや、熟練の農家様が持つ長年の経験に裏付けられた「勘」や「ノウハウ」を、本学の強みである人間情報学などの技術でデジタル化し、人と技術が心地よく協働できる「人間中心のアグリテック技術」の開発と社会実装を進めております。

さらに、こうした研究や社会実装の取り組みに応えるように、学生たちも素晴らしい挑戦を見せてくれています。本学ロボコン同好会は、「NHK 学生ロボコン」で通算 10 度の優勝を誇り、本年の世界大会においても日本代表として「チームスピリット賞」と「特別賞」を受賞いたしました。

こうした世界レベルの研究成果や成果の社会実装、そして学生たちの勇気ある挑戦が、本学が歩んできた 50 年の証しであり、未来へと受け継ぐべき姿であります。

さて、50 年という節目の重みを感じる一方で、現在私たちは、生成 AI に代表される技術革新と、急速な少子化・人口減少という歴史的な大転換点に立たされています。

既存の知識であれば AI から瞬時に入手できる現代において、ただ知識を暗記するだけの教育はもはや通用いたしません。激しい変化の中でも、AI には代替できない人間ならではの知恵、判断力、そして倫理観をもって、持続可能な未来を切り拓く実践的技術者や研究者の育成が広く求められています。

この課題に向き合う上で、私たちが半世紀にわたり受け継いできた「挑戦と創造の精神」が、これまで以上に重要になります。前例のない困難に直面したときこそ、既存の枠組みにとらわれず、多角的な視点で課題を解決へと導く「自律的な思考力」が必要です。AI を高度なツールとして使いこなしながら、新たな学術と技術の地平を切り拓く価値創造力を育ててまいります。

そのため本学では、学生の主体性を促す「教えすぎない教育」を推進するとともに、令和 9 年度からは教育組織の抜本的改革を断行いたします。学問の壁を取り払い、学生自身が思い描く将来像から学びを組み立てる「未来起点教育」へと進化させ、地域の皆様との共創活動を通じて、確かな専門性と豊かな人間性を備えた技術者を育成してまいります。

先人たちが培ってきた「挑戦と創造の精神」を胸に、私たちは次の 50 年へ向けて、新たなる一歩を踏み出します。

全国の高等専門学校の皆様、関係機関、そして地域の皆様から託された温かい期待とご支援にお応えすべく、本学はこれからも、多様な知を結びつけ、地域と世界をつなぐ「技術科学の拠点」として、未来を担う若者とともに邁進していくことを、ここにお誓い申し上げます。

皆様の今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご発展を心より祈念いたしまして、開学 50 周年の式辞といたします。